

第6次中期計画 ビジョン

2022年5月

＼ Vision ／

- コロナ禍で激変した大学コミュニティの再生へ、**組合員の活動参加を通じて貢献しましょう。**
- 生協経営の再建に向けて、多くの組合員が**気軽に自主的に参加できる生協**をつくりましょう。

Challenge

Goal ① 組合員の運営参加の促進

Plan

- 学生組合員組織の再発足
- 教職員委員会・院生委員会の再開
- 各組織委員会の広報活動
- 「ひとことカード」の重点活用
- 組合員からの意見・企画公募
- 各店舗で組合員参加の取り組みを実施

Goal ③ 学生の成長支援

Plan

- 持続可能な社会への取り組みを組合員が起草し体現するための機会と場所の創成
- 地域社会との協同
- 平和への取り組み
- 社会に応える組合員の成長への支援

Goal ② 経常剰余率1%が達成できる 事業体へ再生

Plan

- 新システムの導入（生協電子マネー）
- 生協活動への組合員参加を力にした経営再建特に「食」の追究で、3食・一汁三菜を支援
- オンライン学習に適したコンテンツの提案
- 社会環境の要請に応えた「新規事業」
- 2028年度西早稲田キャンパス新施設の獲得

Goal ④ 生協職員と組合員の協同

Plan

- 組合員との協働に必要なスキルを持った生協職員の育成
- 食堂でサークルや学生団体とのコラボメニュー
- 購買店舗での組合員による「店舗モニター」活動の実施

早稲田大学生生活協同組合 第6次中期計画 ビジョン

0. 早稲田大学生生活協同組合 第6次中計計画 前文

理事長 榎澤 能生

「人の人たるゆえんは、人と人との結合にあり」

(O.v.ギールケ『ドイツ団体法』第一巻、穂積重遠訳)

私たちは、生きるために人との接触を回避するという、非人間的分断に呻吟してきました。この耐え難い未曾有の経験を通じて、私たちは人と人との繋がり、コミュニティが、如何に私たちの生にとって欠かせない根源的なものかを、身をもって体感しました。今大学人の私たちに与えられた最大の課題は、分断を乗り越えて大学コミュニティを再建すること、これを措いてほかにありません。これが達成されなければ、生協の経営再建も望むことはできないのです。

5万4千を数える組合員のほとんどが、大学構成員でもあるという事実からして、早大生協は、その事業活動を通じて大学コミュニティの再建に貢献する無限の潜在力を備えています。第6次中期計画は、この潜在力を顕在化する事業活動をどのように展開するか、その方向性を示すものとなっています。

まずなによりも事業活動を担う組織を立て直さなければなりません。新しい学生組合員組織を建設し、教職員や院生の委員会活動を再開する中で、多くの組合員の運営参加を促進する態勢づくりに着手することから始めましょう。各店舗では、そこに適合的で個性的な組合員参加企画・タスクを、アイデアを結集して考案し、実行に移しましょう。

組合員の運営参加促進により目指されるべき一つの目標は、組合員が抱えている問題や需要を広く深く掘り起こすこと、その問題の解決や需要の充足に組合員自身が取り組むことで多くの組合員が分断を乗り越えて繋がり、大学生活を活性化し、大学コミュニティの再建に寄与することです。

他方この目標は、もう一つの目標と一体的でなければなりません。私たち組合員の欲求やニーズは、時に地球に少なからぬ負荷をかける帰結をもたらすものでもあり、それらは持続可能な社会実現の方向の中で厳密に吟味される必要があります。早稲田大学は昨秋カーボンニュートラル宣言を発し、特に学生の意識向上を目指そうとしています。生協もこれに呼応し、持続可能な社会実現のためには、これまでの私たちの消費・生活様式をどのように変革する必要があるのか、この変革を協同組合はどのように遂行することができ、またしなければならぬのか、常にこの課題と対峙しなければなりません。組合員は、自らの消費・生活ニーズを自省し自己管理の下に置くことを求められます。それには専門的知見の習得が不可欠です。早大生協は、この知見習得の機会を生協の寄付講座として提供します。ここでは大学との間で昨年締結した「相互協力関係に関する協定」が生きてくることでしょう。

持続可能な社会への専門的知見に裏付けられた消費・生活様式を希求する生協の事業展開は、他の業者によるそれに対して圧倒的な優位性を持つことを確信し、本中期計画の着実な実行を通じて、大学コミュニティ再建と生協の経営再建に取り組もうではありませんか。

1. ビジョンと第6次中期計画の外的環境

① コロナ禍以前の事業・組織

2018年学生委員会制度の廃止（解散、組織図から除去、実質の解体）、2017年度から3期連続で事業剰余・経常剰余・当期剰余で損失を計上（苦渋の時代）

② コロナ禍に於ける事業・組織、存続の危機

外的環境の変化、大学コミュニティ、そして生協運動にとって大きなダメージを生む社会的距離の強制＝人と人との距離感が大きな障壁として横たわる。コミュニケーションの劇的な変化（生活の隅々に至るまで「黙○」・「ディスタンス（距離）」）が入り込んだ。大学での「学び」の様式も大きく転換（反転授業が急加速、オンライン化により時と場所を選ばず講義受講を可能とした）し、それが継続する中で、学生、教職員も一定このDX化を受入れ評価するまでに変遷した。

生協が受けた影響はまさに事業と組織の存続危機であった。最大の危機は生協の事業・組織活動と組合員との距離が一段と遠くなり、今まで以上に組合員は組合員としての自覚が希薄になったこと（＝組合員証の会員カード化）。長引く閉店による事業規模の大幅な縮小と、組織基盤がコロナ禍以前より極めて脆弱であったため、組合員の困難（くらしの危機/学びの危機/つながりの危機）に直面しても組合員活動ができないことが拍車をかけた。

2. ビジョン

- コロナ禍で激変した大学コミュニティの再生へ、組合員の活動参加を通じて貢献しましょう。
- 生協経営の再建に向けて、多くの組合員が気軽に自主的に参加できる生協をつくりましょう。

これまで早稲田大学では、組合員の様々なコミュニティによる活発な活動が行われており、早大生協も事業や組合員活動を通してその発展に貢献してきました。

しかし昨今のコロナ禍を経て大学を取り巻く社会情勢は大きく変化し、大学を基盤とする多くのコミュニティならびに生協経営は大きな打撃を受けました。特にオンライン授業の普及に伴い組合員の登校頻度が大幅に減少したことの影響は大きく、ウィズコロナの様式において存続の危機にある大学コミュニティをどのように再建するのが重要な課題となっています。

その中で早大生協は、組合員が気軽に参加できるコミュニティそのものとしての役割を果たし、大学コミュニティ再建の要となるべく、早急に安定した経営基盤を取り戻す必要があると考えます。このような状況を踏まえ、早大生協では組合員・職員が一体となってビジョン実現のための課題に取り組んで参ります。

3. ビジョン実現に向けて「中期計画で取り組む4つの課題」

1) 組合員の運営参加を促進する（誰でも何時でも何処でも参加できる組織活動を）

早大生協では、以下の3点で組合員が運営参加しやすい仕組みを整えます。

- 新たな学生組合員参加組織ならびに留学生委員会の新設、さらに教職員委員会および院生委員会の再開を目指します。

- 各委員会の広報誌を発行し、組合員から生協への意見・企画公募ならびに新歓企画などを旺盛に展開します。
- 各店舗で組合員参加タスクを1つ以上作ることで、組合員参加企画や生協事業関係（スチューデントジョブ等）など、何らかの形で生協と協業する組合員を増やします。

2) 経常剰余率1%が達成できる事業体へ再生します

早大生協では、以下の2つの視点を重点に事業を充実させ、安定した経営基盤を目指します。

- 組合員参加を力に、コロナ禍以前そしてコロナ禍で大きく傷ついた経営を再建します。
- 既存事業では特に「食」の追求を、社会環境の要請に応え組合員とともに「新規事業」を。

2010年度～2024年度 損益推移表（実績・計画） ※単位：千円

	10年実績	11年実績	12年実績	13年実績	14年実績	15年実績	16年実績	17年実績
供給高	6,708,568	6,117,872	6,208,489	6,364,957	6,256,228	6,176,242	6,147,706	6,065,637
事業総剰余金	1,302,452	1,187,865	1,228,777	1,260,607	1,262,123	1,252,695	1,280,900	1,221,501
人件費	763,471	718,604	740,487	747,667	742,237	738,598	765,211	744,832
物件費	502,255	460,966	463,445	488,854	508,073	505,285	505,438	502,965
事業剰余金	36,726	8,295	24,846	24,086	11,814	8,812	10,251	△ 26,295
経常剰余金	20,306	7,607	21,341	30,504	15,174	12,244	12,008	△ 27,956
当期剰余金	31,888	14,800	26,855	35,357	29,620	31,153	20,417	△ 6,161
累積剰余金	48,285	63,085	89,941	44,134	86,802	117,955	138,372	132,211
経常剰余率(%)	0.30%	0.12%	0.34%	0.48%	0.24%	0.20%	0.20%	-0.46%
	18年実績	19年実績	20年実績	21年実績 (見込)	22年予算	23年予算	24年予算	25年以降
供給高	5,847,013	5,530,371	2,622,857	3,099,329	3,180,840	3,300,000	3,550,000	3,750,000
事業総剰余金	1,240,862	1,197,569	560,493	694,250	717,000	820,000	905,000	982,500
人件費	751,469	761,962	559,253	520,701	489,040	492,000	515,000	520,000
物件費	518,300	527,725	348,673	340,916	447,930	407,930	420,000	425,000
事業剰余金	△ 28,906	△ 92,119	△ 347,433	△ 167,366	△ 219,970	△ 79,930	△ 30,000	37,500
経常剰余金	△ 30,219	△ 74,114	△ 191,140	20,491	△ 209,200	△ 79,930	△ 30,000	37,500
当期剰余金	△ 12,725	△ 46,772	△ 166,522	116,970	80,091	△ 43,720	30,000	67,500
累積剰余金	119,486	72,713	△ 93,808	21,862	101,953	58,233	88,233	155,733
経常剰余率(%)	-0.52%	-1.34%	-7.29%	0.66%	-6.58%	-2.42%	-0.85%	1.00%

3) 組合員参加型の事業活動・社会的活動を通して学生の成長を支援する

4) 生協職員は組合員と協同し、ビジョンの実現を目指します

4. 「中期計画で取り組む4つの課題」の具体化

1) 組合員の運営参加を促進する

■ 活気に満ちた組織委員会の復活

① 学生委員会の再発足

留学生も含めた学生委員会を組織すると同時に、留学生委員会の発足についても検討する。

② 院生委員会・教職員委員会の再開

■ 旺盛な組合員活動の展開

③ 開かれた組合員活動

組合員と共に事業を展開・協業することで、組合員の成長を促す。

組合員とのコミュニケーションツールとしてひとことカードを重点的に活用する。

- 食堂においてサークルや学生団体と共同で、コラボメニューの開発を行う。
- 各店舗において環境系サークルや学生団体・教員と共同で、フードロス削減や脱炭素に向けた取り組みを行う。

④ 組織委員会の使命

組合員活動を通して大学コミュニティ再建の一助となるだけでなく、自らも大学コミュニティのひとつとしての役目を果たす。

- 各組織委員会にて機関紙やSNS等を用いて広報活動を行う。
- 学生委員会を中心に学生生活についての相談会を実施する。
- 学生委員会を中心に給付事例を用いた共済の報告・予防活動を行う。

2) 経常剰余率1%が達成できる事業体へ再生します

■ 組合員向け福利厚生サービスレベルの向上

① 新システムの導入

生協電子マネー導入（2022年9月）、生協利用でのポイント決済利用が可能に。

総務・会計システム、勤怠管理システムの導入、コストを縮減。

新規レジ一斉導入、調達コスト半減（2022年9月）。

無人レジ、手詰め自販機、券売機などへ生協電子マネー決済機能を付加。

② 対面接客とDX接客との並走

教習所事業、旅行事業、学内外国語試験事業、卒業袴・ガウン事業、教科書事業などはDX化を推進。組合員ニーズに応じてDX・対面・そしてハイブリッドな対応推進を行う。

③ 利用シーンでのDX化

カフェテリアで「混雑で利用できないかも知れないから行かない」という組合員を減らすため、DXを取り入れた混雑時対策を行う。席予約、混雑の見える化、モバイルオーダーなどの仕組みの検討、生協電子マネーや早稲田カードとの紐付け、等

④ 営業時間

組合員への責任を果たすバランスを追求する。大学本部と協議。即ちコロナ禍で大きく変化

した組合員の生活に最大限寄与する。

⑤ 実店舗の営業時間に左右されない食支援

3食しっかり一汁三菜を支援する自炊用食材の供給

24時間食支援機能とフードレスキュー機能を両立させる手詰め自販機の開発設置

⑥ メニュー

これを食べるに生協に行こうと思いつかぶようなインパクトのある目玉商品を開発する。

⑦ 品揃え

オンライン学習に適したコンテンツ・ソフトの紹介や組合員・学生割引価格での販売を行う

⑧ 施設

2028年度12月西早稲田キャンパス新52号館福利厚生施設の獲得

● 17号館コーププラザ、店舗機能の統合・再配置

目的は、コロナ禍以降の早稲田大学の学内人口を見据えて、役割再配置、店舗間機能統合、外部会場の使用料削減等の事業経費の圧縮を図る。

さらに、組合員にとっての利便性を高め、加入の促進を図り、新規事業の提供機会を得ること。

コーププラザ2Fを新規事業、生協主催公務員講座の教室として、またレンタル袴展示会、入学準備説明会会場など多目的会場として設置工事（2021年5月1日）

コーププラザ1Fにライフセンター、トラベルサービスセンター、新規事業の住まい探し事業部の新設、3店を統合（2022年9月竣工予定）。

B1Fには教科書販売所（通常期はフリースペース）を新設。書籍品揃えの見直しを図り、勉学研究用途への特化を図る。外販強化、効率化を目指しカウンター・バックヤード機能統合を行う（2022年9月竣工予定）。

管理部・本部の再配置、B2Fの福利厚生、保管庫の再設計を行う。

● 大隈ガーデンハウスの機能の統合・再配置

2Fに機能集中を図るため、厨房部分改装（麺コーナーの新設）を実施（2021年4月竣工）。

取り点数の上昇、供給剰余高確保、稼働率最大化のため、レーン・厨房の再配置を最小限で実施（2022年4月竣工予定）。

利用者数に機動的に対応し、一汁三菜、食育に寄与するための改装を実施（2022年8月以降検討）

コアタイム以外の食堂を「比較的安価な喫茶スペース」として提供し、複数人でのディスカッションや飲食しながらの自習に活用してもらうなど、キャンパスの需要に合わせた展開を模索する。2Fと3Fの棲み分け、取捨選択。

● 所沢キャンパス、戸山キャンパスも稼働効率および組合員ニーズに応じて検討

⑨ 新学期

新入生・保護者の「個」の不安を解消し、生協との4年間の始点とする。

商品・サービスの販売時だけではなく、その後繋がりと安心を提供する。

- 教科書販売は、Waseda ID を使い My Waseda と連携を目指し、一括購入できる仕組みを訴求する。第一歩は時間割、シラバスとの連動を開始する。
- 早稲田パソコンに付帯する組合員目線のサービスを充実させ、「これ一択」と思ってもらえる提案を目指す。特に生協利用者に多いパソコン導入にあたって詳しくない層へ向けて、選ぶ段階からの安心サポートを充実させる。
- ニーズに合わせて新入生が選択できる早稲田パソコンの提案を行う。学部要求仕様は伝えたくて、キャンパス共通での複数機種提案も検討する。

■ 社会環境の要請に応え組合員とともに取り組む「新規事業」

⑩ 講座事業

- 上級生向けに iPad を提案し、ニーズを調査し使い方講習会の実施を検討する。
- 情報リテラシー向上のための講習会を開催する。
- Mac に不慣れな学生のボトムアップを目指し、パソコン講座を開講する（所沢）。
- 英語講座の参加ハードルを下げる（導入編、価格を下げ、毎日30分から1時間英語に触れる機会を提供することで英語力向上を目指す企画とする）。

⑪ 住まい事業

生協オリジナルマンションの優位性を伝え、毎年満室を目指す。住まい紹介全体の価値を高め、取引先各社と連携し生協物件数の増を目指す。

野方会館、資産価値を高めるための改装を実施（2023年度）。2023年度から設備、立地ともに組合員ニーズに応えられる生協所有物件として満室を目指す。

■ 共済の取り組み

⑫ 安全啓蒙活動

- 自転車点検会
- 食・メンタルヘルス生活相談会
- 災害に備えたローリングストックの提案活動
- 無料アルコールパッチテストと飲酒で命を失わないために、の啓蒙活動

⑬ 学生生活を守る保障、学業継続のための補償の啓蒙活動

- 給付事例の広報活動
- 無保障、不足、広報活動

3) 組合員参加型の事業活動・社会的活動を通して学生の成長を支援する

■ 持続可能な社会への取り組みを組合員が起草し体現するための機会と場所の創成

① カーボンニュートラルへの取り組み

- レジ袋削減、マイバック啓蒙活動
- リデュース：ごみの発生抑制、フードロス・フードレスキュー活動
- リユース：書籍・衣類・家電・家具再使用、
- リサイクル：ごみの再生利用（ほっかる、間伐材お箸、木製スプーンの促進）
- 電気自動車、などへの営業車の切り替え

② SDGs で生協と協業するスチューデント・ジョブの創成

- ③ 食堂や購買店舗において、常に豊富な品揃えを維持するためのフードレスキューとのバランスと並行活動。

■ 地域社会との協同

④ 商店会との協同、催事企画、生協店舗とのコラボ企画の推進

- 地域振興への広報、催事の企画
- 店舗での地域商品の展開、地産地消
- 古書リユースの共同企画

■ 平和への取り組み

⑤ Peace Now（広島・長崎・沖縄）参加の復活

- ⑥ 核兵器廃絶国際キャンペーンへの参加

■ 社会の要請に応える組合員の成長への支援

⑦ 早大生協給付奨学金の継続（大学への寄付の再開）・発展

- 経営危機のため 2020 年度第 4 回定例理事会で 2022 年度迄の寄付の見送りを決定
- 制度は継続、2023 年度の経営状況を見て再開の判断をする、としている
- 金額、目的を再定義し直し、再開を目論む

⑧ 早大生協寄附講義の検討・開始

- 持続可能な社会への取り組みを組合員が深く考え、起草するための機会と場の提供、大学と連携し社会への即戦力人材を育成することを目的とし、単位認定される寄附講義を検討
- 生協の提供する学びと成長事業（教材提供・講座事業）とのリンクも検討する

⑨ 早大生協懸賞論文の検討・開始

- 組合員の勉学研究活動を奨励し、論理的記述に関する能力の訓練・向上を図るとともに、持続可能な社会の実現へ向けて独創性あふれる優れた人材の育成に寄与することを目的とし、寄付講義とともに開始を検討する
- 生協の提供する学びと成長事業（教材提供・講座事業）とのリンクも検討する

4) 生協職員は組合員と協同し、ビジョンの実現を目指し、以て生協の組合員活動に確信を得る

① 組合員との協働に必要なスキルを持った人材への育成

- 他大学生協との事例交流、学び合い
- 部門会議での報告の定例化（全職員に義務化）
- 店舗での実践、パート職員育成

② 各店舗店長設定、半期ごとに目標を設定する

〈 2022 年度上期 〉

理工店（購買）

- 西早稲田キャンパスから新たな学生組合員参加組織への参加、輩出を

理工（・戸山）カフェテリア

- コラボメニューを半年で3回実現する。
- スチューデント・ジョブ3名以上採用。
- 一言カードを5枚/月回収する。

コーププラザ・ライフセンター

- 早稲田キャンパス店舗制覇スタンプラリー企画を組合員と実施
- グッズ、焼き立てパン、内製おにぎり、内製弁当など生協店舗企画への店舗モニターを募る（3名獲得）

組合員サービスセンター・ブックセンター

- 早大メンタルヘルス・プロジェクト（仮称）の組織化、運営メンバーが固定され、月に1度以上の定例会（PJ）が開催できる。
- ブックポータルとの協同。棚づくり、読書推進。

大隈ガーデンハウスカフェテリア

- カーボンニュートラルへの取り組み、フードロスへの取り組み
- ゴミ分別再生の取り組み、フードレスキューへの取り組みを学生団体と
- どの取り組みも後輩に「つなぐ」、組合員と社会を「つなぐ」

戸山店

- 早稲田パソコン購入者とのつながりを作る。1年生2～3名、2年生2～3名。
- 進級パンフ作成メンバーを募集。各学年1～2名程度。

所沢店

- 新たな学生組合員参加組織との協同、棚作り、店舗企画を行う。

本部

- 規約の確定、必要な規約・規則が理事会で承認されている状態。
- 新たな学生組合員参加組織の活動開始、新メンバーを迎え、活動できている状態。
- 活動開始が見送られた場合でも、課題とその後の見通しがたっている状態。
- 環境問題に関わる学生とのつながりをつくる。部内での学習会を実施する。環境問題への取り組みを具体化し、店舗で企画を実施する。